

No. 10-6

事務事業評価シート1-1

は、プルダウンメニューから選択

事務事業No. 10 - 6

事業分類		<input checked="" type="checkbox"/> ソフト <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> 必需		公的関与		2		作成日		27年 4月 30日		
事務事業名		ホームケア事業						シート作成部署				
総合計画上の位置付け	基本施策	2 人にやさしいまち						課名	長寿福祉課		係名	高齢福祉係
		2-2 支えあいを実感できるまちをつくる							シート作成者			
	施策	2-2-3 高齢者福祉の推進						予算費目	会計		一般	
									款		3	
主要施策	④ 保健福祉サービスの推進						項		1			
							目		2			
個別計画名		高齢者福祉計画										
		介護保険事業計画										
住民との関わり		特になし										
事業の対象・目的・内容	対象（誰を、何を）				目的（どういう状態にしたいのか）							
	在宅ねたきり高齢者等				在宅ねたきり高齢者等に対し、おむつ代、寝具洗濯乾燥費及び理美容費の助成を行うことにより、その福祉の増進に資することを目的とする。							
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）											
対象者又はその介護者の申請に基づき、審査のうえ助成の可否を決定する。おむつ助成は月額7千円を支給する。寝具洗濯乾燥サービス費助成は年4回、理美容サービス費助成は年6回まで受けられ、利用者はサービス費の1割相当分を負担することで、事業者が自宅を訪問してサービスを行う。												
事業期間		昭和 <input type="checkbox"/> 平成 <input checked="" type="checkbox"/> 13年度		～		平成 年度（ 年間）		<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
根拠法令・要綱等		東員町ホームケア事業実施要綱										
		平成25年度（決算）			平成26年度（決算）			平成27年度（予算）				
全体事業費（千円）A+B		8,847			6,174			8,780				
財源内訳	国庫支出金		0			0			0			
	県支出金		0			0			0			
	地方債		0			0			0			
	その他特定財源		0			0			0			
	一般財源		8,187			5,514			8,120			
直接事業費（千円）A		8,187			5,514			8,120				
人件費（千円）B		660			660			660				
内訳	一般職員（人・千円）		0.10 人 660		0.10 人 660		0.10 人 660					
	臨時職員（人・千円）		人 0		人 0		人 0					
成果指標	成果指標名				単位	26年度		27年度	28年度			
						目標	実績	(目標)	(目標)			
	①	おむつ助成人数			人	84	76	90	92			
	②	寝具洗濯乾燥サービス費利用回数			回	10	13	28	30			
③	理美容サービス費利用回数			回	50	43	60	65				
説明	おむつ助成は助成人数、寝具洗濯乾燥サービス費及び理美容サービス費は利用回数を指標に設定。											

事業名	ホームケア事業	シート作成課	長寿福祉課
-----	---------	--------	-------

一次評価者	長寿福祉課長	二次評価者	生活福祉部長
-------	--------	-------	--------

評価項目の説明	チェック項目		一次	二次	一次の評価又は説明	
	必要性	1. 事業開始時の目的を概ね達成するなど実施意義が低下している。 2. 社会情勢の変化など時の経過とともに事業開始時の目的が変化してきている。 3. 利用者、対象者の減少など住民ニーズの低下傾向がみられる。 4. 住民ニーズを上回るサービス提供となっている。 5. 国や他市町と比較するとサービスの対象や水準を見直す余地がある。 6. 国や県のサービスと重複している。 7. 民間のサービスと競合している。 8. 厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		在宅福祉を推進する上で寝たきり高齢者等の日常生活を支援していくためには、このホームケア事業を継続する必要があります。事業の実施により介護者の負担の軽減を確保できます。
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。 2. 施策への貢献度が著しく高いとはいえない。 3. 施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。 4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い（他市町や類似業務を行う民間に比べて）。 2. 現在の事業実施主体の他に効率的に事業を実施できる主体がある。 3. 他の実施主体のノウハウを活用できる。 4. 他の実施主体を活用しても公平性・公正性等が担保され、行政責任が問われない。 5. 事業実施している人員、手段等の見直しによりコスト削減の余地がある。 6. 電子化等の事務改善によりコスト削減の余地がある。 7. 契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
達成度	1. 事業開始時の目標設定に比べて進捗状況が劣っていると思う。 2. 事業開始時の目標に比べて成果があまり上がっていないと思う。 3. 概ね目標を達成していると思う。 4. 十分に目標を達成していると思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			

本事務事業の実施適切性の説明

本事業は、介護保険サービスを補完するものであり、在宅介護を推進する上で事業を継続をしていく必要があります。

一次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		4	4	3	4	B	A
	今後の方針	休・廃止		見直し		継続	
今後の改革・改善目標	重度の要介護認定者等の在宅生活を推進する上での経済的支援として、今後も引き続き実施します。また、介護事業所等と連携を図り周知に努めます。						

二次評価	評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	
		4	4	3	4	B	A
	今後の方針	休・廃止		見直し		継続	
コメント	要介護高齢者が住み慣れた地域で生活していく上において、在宅福祉を推進し、寝たきり高齢者等の日常生活を支援していくことは重要な施策であり、事業を継続していく必要があります。						

二次評価に対する課の考え方							
---------------	--	--	--	--	--	--	--

参画協働の今後の方針	いつから	平成	年度から	1	現在の手段を継続する		
------------	------	----	------	---	------------	--	--